



Let's reduce garbage !

ごみの減量化にご協力ください



生ごみのたい肥化事業の取り組み

朝日生ごみリサイクルネットワーク

越前町は自然環境に恵まれています。

誰もがいつまでも水がきれいで安心安全な米、野菜、魚のとれる町であってほしいと願っています。

より良い環境づくりのため、一人ひとりに出来ることから始めようと賛同者を集い「朝日生ごみリサイクルネットワーク」を立ち上げました。

台所から出る生ごみが可燃ごみの4割を占めようとしています。できるだけ生ごみはごみステーションに出さないようにしましょう。

生ごみをバケツの中でボカシを混ぜて発酵させ、畑に戻し有機肥料にする。「生ごみは畑の宝」で採れた野菜はおいしい。

活動に賛同する仲間も増えてきました。

ここで一つの問題が発生、畑がない人は、バケツで発酵処理しても、持って行く場所がない。

そこで、生ごみ処理機(20kg処理)を気比庄の会員さんの作業倉庫に設置し、昨年5月から毎日稼働しています。

搬入者である、朝日地区在住の町民35人の皆さんが車、自転車、徒歩で持込んでいます。

生ごみがみちがえるような有機肥料に変わっています。

この活動が更に大きな輪になることを願っています。
また、見学など興味がある人はお問い合わせください。

【生ごみ処理機の概要】

- 設置場所 越前町気比庄
- 年間処理量 4,800kg(400kg×12か月)
- 搬入時間 (毎日/午前7時～午前8時)

【問合せ先】

朝日生ごみリサイクルネットワーク
代表 木下美恵子 ☎090-3764-4071



生ごみの搬入



バケツで発酵

越前町から排出されるごみの量が増加しています。
平成24年度は、町全体で約7,100トン(資源物含む)のごみが排出され、1人1日当たり約830グラムが排出されています。
皆さんが排出した可燃ごみは、鯖江クリーンセンターで焼却され、最終処分場で埋立処分されています。
紙類、あき缶、びん、ペットボトルなどの資源物は、リサイクル施設で破碎、圧縮などの処理を行い、再資源化されています。
町では、このようなごみ処理を行うため、平成24年度で約128,500千円を負担しています。
ごみの減量化にご協力をお願いします。

家庭で取り組むことができるごみの減量化対策

生ごみを減量化しましょう

生ごみの約70%は水分といわれています。
生ごみを出す時には、水分をよく切り、さらに天日干しすることにより減量することができます。
コンポスト容器などを使用すると生ごみが肥料として使用できるので、ごみの減量化につながります。

- 町では、生ごみの減量化を推進するため、コンポスト容器・密閉容器の購入者に対して補助金を交付しています。



使えるものは使用しましょう

野菜の皮などは生ごみとして捨ててしまうのではなく、できるだけ料理に使いましょう。
また、詰め替えができるものは、詰め替え用商品を購入しましょう。



牛乳パックを可燃ごみとして出していないですか？

牛乳パックは資源物なので、切り開いて水洗いをし、乾燥させてから資源ごみの日に出してください。

- 牛乳パック約6枚をリサイクルするとトイレットペーパーが1個つくれます。



問合せ先 保健衛生課 ☎34-8710

食べ残しをなくしましょう

食べられる分だけ料理して、できるだけ食べ残しをなくしましょう。

- 食べ残しを減らすことで、焼却によるCO₂排出量を減らします。(環境にも良いよ。)



3Rに取り組みましょう

Reduce(リデュース)

ごみになるものを減らし大切に長い間使うこと。

- エコバックなどを利用して、できるだけ、レジ袋をもらわないようにすることもリデュースです。



Reuse(リユース)

使い終わったものを捨てないで、もう一度使うこと。

- 壊れてしまったら捨ててしまうのではなく、修理して使う。また小さくなった服は他の人にあげたりして、使うこともリユース。



Recycle(リサイクル)

資源ごみを、もう一度使える資源にして使うこと。

- ごみを捨てるときは、ルールを守って分別する。

(例えば、ペットボトルは、再び新しいペットボトル・服・たまごパックになったり、びんは、新しいびん・道路や建物の材料などに生まれ変わります。)



資源物の回収にご協力ください

皆さんの家庭から出された資源物(紙類、びん類、ペットボトルおよび缶類)は資源として売却され、その代金はごみ収集やごみ処理などの費用に充てられています。
資源物はごみステーションに出すほかに、地域で行っている集団回収(資源回収)にご協力ください。

- 平成24年度に学校など登録団体が資源回収した紙量は約460トンでした。

